

## APHS Bali 2019 学会参加報告書

手稲溪仁会病院 外科 今村清隆

昨年引き続き日本ヘルニア学会国際委員会より奨学金を賜り、誠に感謝しております。ここに謹んで学会報告させていただきます。

私が APHS に参加させていただいた理由は、主に2つあります。①2016年に東京で行われた第12回 APHS で癒痕ヘルニアに対する海外での進んだ治療法を見て受けた衝撃を忘れられず、海外の進んだ癒痕ヘルニアの術式を取り入れたい、②アジア圏のヘルニア診療の進歩に興味があることです。それに、今回は時差も少ないバリ島で行われるということで非常に魅力的でした。5月に四日市で開催された第17回日本ヘルニア学会学術集会支部推薦セッションにて優秀演題賞を頂くことができましたので、それが後押しとなり APHS に演題登録をさせていただきました。



今回は、事前に Master Class という 4 時間の講義を予約していただきましたので、前日より著名な先生方の講義を拝聴することができました。その後の学会 2 日間を含め、29 カ国からの 500 名以上の参加者と共に深淵なヘルニアの世界にどっぷりと浸かることができました。今回の学会テーマは『Hernia Surgery: Black and White』ということで、物事には善悪の両面あるということに関連し、例えば 1 つの術式について良い点、悪い点を双方に分かれ討論する試みもみられました。ロボット修復術についても、すでにヘルニア分野が泌尿器や婦人科を抜いて世界のロボット手術件数で最多であるとのことでした。他の国の進んだ手術を拝見し、気持ちを新たにしました。

私が、口演発表しましたのは『横径 10cm 以上の腹壁癒痕ヘルニアに対する transversus abdominis release 法』についてです。開腹と腹腔鏡の適応や成績、手術の工夫などビデオを交えて説明致しました。導入方法や実際の手技の工夫についてなど様々な質問を頂きました。



上の写真は APHS fellowship を終えた修了生の表彰式をこれから行う様子です。私も、これをいつか頂けるように努力いたします。

APHS は非常に温かく Happy birthday song が隣の会場から聞こえてきたりしましたし、新 President に選ばれました UAE の Rolf Hartung 先生も非常に気さくで普通に話しかけてくれたりします。世界のヘルニア外科医が再会を楽しんでいる感じです。このように国際学会に参加することは論文を読むのとは違う刺激を与えてくれます。昨年度のような事務手続き上の煩雑さは全くなく安心して学会を楽しむことができました。来年は上海とのことです。きっと楽しいと思いますので、若手の先生も勇気を出して参加してください。

これからもヘルニア診療に貢献したいと思っております。興味を持ち続けていただけるのも、複数回に及び APHS 参加を後押しして下さった日本ヘルニア学会の諸先輩方のおかげです。誠にありがとうございます。

